

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年12月(2005年) No.480

今年も早や師走

17年度 年度賞は誰に？

会長 合原一夫

今年も早や今年度最終の12月例会を迎えました。一年立つのが早いと感じるのは、いよいよ私も年をとってきた証でしょうか。それにしても今年度は会員諸氏の活動めざましく、例会も平均28.8人、作品14.8本の月平均を数え盛会続きであると同時に、内容もハイビジョンやワイドが大幅に増えるという昨年までとは様変わりでした。パソコン編集でようやく、通常の4対3の映像で編集するのに慣れてきた頃ですが、皆さん、もっと高度な編集技術と機器への投資に積極的なのには驚かせられます。これもボケ防止と頭の体操には良い薬かも知れません。

さて、昨年12月より今年の11月までの例会作品の中より年度賞作品を選定する時期となり、12月例会前の幹事会で決定いたします。会員諸氏の作品レベルが上がって、優劣つけ難いのが実情です。安居さんをお願いして作成して頂いている毎月の例会作品のDVDをおよそ1週間かけて再度全作品を拝見し、総合評価点をリストアップし幹事会に図って年度賞を決定します。昨年の第1回目には紙本さんの「御柱祭」が大賞に異存なく選ばれましたが、今年は正直いってズバ抜けてトップを走る作品が見当たりません。

さて、年度大賞はどなたの作品が選ばれるのでしょうか。結果は新年例会で発表されます。どうぞ楽しみにして下さい。

12例会ほかのお知らせ

今年最後の12月例会は24日(第4土曜日)午後6時より難波市民学習センター(JR難波O-CATビル4階)にて開催します。今年最後の例会です。どうぞお集まり下さい。

■来期会費(8,000円)を会計へ納入お願いします。

■新年会出欠確認：新年例会は1月15日(第3日曜日)13時より総会を兼ねて開催、夕方より5階のスーパードライ難波で新年会を行います。(会費当日徴収 5,000円)。出欠を同封のハガキにて1月10日(必着)までに投函して下さい。

撮影会でお世話になった 田中氏（和彦）が例会見学

橋本での「へら竿」づくり撮影会でお世話になった田中さん（竿名：和彦）がひよこり 11 月例会の会場にお見えになり、最後まで例会作品をご覧になってお帰りになりました。これは先ほど、お礼の意味で、撮影会作品を合原、岡本、関、3 氏の分を藤原さんに立派なパッケージ入りで DVD にして関係者に贈呈した結果、大変喜んで頂きました。そして、テレビ画面ではなく大映写した画面で見てみたいと岡本さんに連絡があり、今回来場されたものです。

そこで、前田さんに撮影会作品を持ってきて頂き、上映いたしました。

今度は、ぜひ自分を主演に竹を切り出すときから全工程を撮ってほしいと言っておられました。ぜひ撮ってみたいと思われる方は岡本会員までご連絡ください。今月中にも竹切にはいられるとのこと。

■来年の撮影会についてどうぞ情報を

毎年、年度末になると頭の痛いのが、来年の撮影会はどこにしようか、というテーマ選びです。撮影会だから行けるところ、出来るところ、いいネタがあったら教えてください。祭り等のイベントがからむと早目の宿の手配が必要ですのでよろしく。

11月例会のレポート

さすがに 11 月例会ともなると朝夕めっきり冷え込む季節となり、紅葉も色づいて絶好の撮影シーズンを迎えています。例会ではさっそく秋をテーマの作品が出品されました。今月の司会は吉岡氏、書記、合原氏、機械係、河合、江村、増池の 3 氏、受付、宮崎、森口両氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、石垣、岩井、江村、岡本、奥、上総、河合、黒田、合原、進藤、関、玉井、西井、鉄具、秦、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺の各氏に見学者、計 30 名。

■上映作品（今月の講評は合原会長です）

1. 晩秋の水景園

吉岡 貞夫さん 6分43秒

学研都市で2年前に撮られた由。こういう静かなたずまいの場所をよく見つけられました。紅葉の季節には少し早かったようですが、万博公園の日本庭園に似て一度は訪れてみたいところです。小豆島から切り出してきたという巨石が作品の重しになっていたと思います。ただ気になったのは止め写しカットが多いこと。紅葉や池面など静止画はすぐに判りますのでできるだけ避けたいことと、使う場合はオーバーラップで間にはさんでパップッと変化をつけると違和感なく使えるのではないかと思います。また BGM はムードがあって合っていますが、前に見た横浜のベテラン映像作家金子喜代子さんのグランプリ作「伝説の中に生きる町」の狐の嫁入りシーンを思い出してなりませんでした。選曲は難しいですね。しかし綺麗な映像でした。

2. フェスティバルゲートは今

安居利次さん 8分15秒

天王寺近くの元市電車庫跡につくられた娯楽施設フェスティバルゲートの経営行き詰りをテーマとした、安居さんならではの社会派作品。よく調べて過去に亡き奥さんと共に撮られていた映像もうまく活用して作品にされています。今、大阪市も市政改革が叫ばれ、市長も選挙で出直しされました。今まで第三セクター等で赤字たれ流してきた大阪市が、今後どれだけの改革ができるでしょうか。そういう意味で時宜を得た作品のように思いました。何年か先、新しくなったこの現場と、この作品を見てどう変わったか、興味の湧くところです。立派な作品でした。

3. 大和の塔めぐり

有村 博さん 6分42秒

塔はタテ長、映像が横長になっていく今のうちに撮っておかな、というわけで作品にまとめたとまずは作者の弁。それにしてもよくまあ、あちこちの塔を撮られたものとそのバイタリテには敬意を表します。11 寺 1 社 15 塔を納められた由で DV カメラになってからの撮り溜めの映像をうまく編集されています。やはり古い建築はいいですね。現在の建物をこんなに集めてみてもどうということないでしょうが、次はワイド版も期待したいところです。

4. トルファン

山本正夢さん 6分30秒

山本さんの2ヶ月に及ぶ海外旅行のうち4日間滞在して撮影されたシルクロードのトルファン。火焰山、高昌古城跡、仏教遺跡の数々等の世界遺産を始め、現地人の生活、ぶどう畑なども描かれ、山本さんだからこそ撮影できた珍しい映像を見せて頂きました。あの村には外人として私が初めて入ったとの作者の言葉に、納得するものがありました。珍しい異国情緒あふれた作品でした。

5. ウエディング・イン・ハワイ

西井 学さん 10分00秒

おいの結婚式に招かれてハワイへ行かれたときの記録。作者も30年前にハワイで結婚されて、思い出深いところだったようです。こういう作品は身内だけに見せるプライベート作品にするのか、第三者に見てもらう一般作品にするかによって、作品構成及び脚本が違ってきます。この場合、第三者に見せる一般作品にするならば、もっと判りやすくストーリーを展開させなければ、見る人が混乱します。ねらいは、おいの結婚式がメインなのか、30年前の自分たちの結婚式の回想が主役なのかをはっきりさせなければいけません。回想を主にするならば、新婚カップルの記録写真のシーン等長すぎますし、岸和田のだんじり等8ミリフィルム時代の映像などもいらなと思います。新婚カップルの誕生を活かして、自分たちの30年前の姿を重ね合わせ、どうぞ末永く幸せに人生を送ってくれよ、というメッセージを込めた作品に構成し直すときっとよい作品になると思います。ナレーションがほしいところです。

6. 遊歩二景

宮崎紀代子さん 6分05秒

中山道61番目の宿場町米原市さめがいで地蔵川の「梅花藻の咲く川」と高山植物の宝庫「伊吹山の秋」の二題をひとつにまとめたスケッチ風に描いた紀行ものの小品。

宮崎さんも実にうまくなられました。すんなりと画面にとけ込んで心持ちよく見させて頂きました。この調子で来年もどうぞ、頑張っている作品を期待しています。

7. 夫婦紀行！ドノウ川下りの巻

鉄具嘉夫さん 6分40秒

鉄具ご夫妻の海外旅行の記録。夫婦旅行とタイトルでうたっているのに、何故か画面には奥様だけ。ご主人の方は遂に最後まで姿は見ませんでした。自戒の念からか字幕で「貴女はハズバンドと喧嘩でもしたのか？船でも独りであった！」「女性に対してはエスコートが常識、カメラのお父様方くれぐれも御用心めされよ！」とありました。夫婦旅行というのにご自分も入っていない不自然さを作者はよく判っていらっしやるようです。皆さんも「そうだそうだ」とうなずいておられる方多いと思います。

8. 秋祭六町山車共演

石垣禎章さん 7分38秒

東大阪上小阪八幡神社の秋祭りの記録。おみこしや山車、ふとん太鼓など賑やかに町内を練り歩く祭りです。山車の上で大工方が天神祭りの龍踊りのような仕草がが岸和田のだんじりと違っていました。町内会に頼まれて撮影された由。一般作品にするにはどうまとめるのか、山場をどう設定して盛り上げるのか工夫のいるところです。ナレーションがあったほうが一般向けとしてまとめ易いように思いました。

9. 白衣で精神（ハイビジョン）

森田光春 9分05秒

タイのプーケットで行われる中国系仏教による9日間に及ぶ祭りの状況を撮影されたもの。この間、肉食、酒、煙草、賭博、性欲などを絶つ慣わしとか。とくに修行者たちが口に棒を突き刺したり我が身を傷つけたりして行進する様は異様です。こういう画面は長く見せられると暗い印象しか残りませんので、2,3カット程度でサラリと流した方がよいと思いました。珍しいお祭りの映像で、同じ祭りでもこんな風習もある祭りもあるんだと、世界の広さを思い知らされました。

10. 晩秋の伏見（ハイビジョン）

奥 宏さん 7分02秒

正式の題名は「晩秋の伏見十石舟の旅」となっていました。伏見の酒蔵、寺田屋のあと、十石舟に乗船しての遊覧です。さすがにハイビジョンの映像で、落ちついた撮影ぶりと共にきれいな画面でした。奥さんの向上心は新しい技術への取組みと共に一

段と進んでいるように見受けられました。舞妓さんのところは偶然居合わせてラッキーでよかったのですが、いい画面ほどカットが多すぎますと逆効果になりますので、もう少し整理された方がよいでしょう。また BGM も全般にベターッと流れていてメリハリがないので、映像を引き立たせるような押さえ気味の曲が合いそうに思います。

11. 初秋 (ハイビジョン)

江村一朗さん 4分30秒

江村さんが初めて取り組まれたハイビジョン作品。江村さんも遂にハイビジョンに転向されました。さすがに画面もきれいですね。飛鳥の田園風景、懐かしい案山子が映像のアクセントとなって効いています。まとめ方もアップあり、ロングありでテンポもよく、いい出来に仕上がっていました。ただ最後の夜の灯りを描いたところは何かこの「初秋」というテーマの作品には不似合な印象を受けました。

12. 紀州へら竿の里 (ワイド)

前田茂夫さん 13分55秒

橋本へら竿撮影会でお世話になった和彦・田中和仁さんがゲストとして会場にお見えになったので、当初出品予定の別の作品に差し替えて、この撮影会作品を上映したものです。この作品も撮影会作品として、前田さんらしく、よく調べて突っ込んだ奥行きのある作品に仕上がっており、出演者の一人である田中さんにも満足してご覧になったことと思います。特にインターネットに出ていたというへら竿愛好家の言葉で締めくくられたラストは生きていました。

13. 秋はいま (ワイド)

河合源七郎さん 6分04秒

信州の山林で撮られた美しい映像です。実際には人が大勢いたそうですが、画面に人が入っていませんので、人が途切れるのを待って根気強くシャッターチャンスを待って撮影されたのでしょう。紅葉の逆光のアップなど特にきれいに描いておられます。銀色に輝くこの画面だけが何か違和感がありましたが、色調のせいだったからでしょうか。ラストカットは太陽のズームバックでしたが、最後のカットは紅葉の山の方が印象に残ったのではないかとふと思

いました。

14. 飛翔 (ワイド)

進藤信男さん 7分31秒

豊岡市コウノトリ人工飼育所に通われてコウノトリに取り組んで作品にまとめられた力作です。報道では見ましたが、コウノトリを野に放つイベント放鳥のシーンは、アマチュアとしてよく撮影されたものと、そのご努力に敬意を表します。聞けばキャノンの 20 倍カメラに 2 倍の望遠レンズをつけ 70 メートルも離れた位置からねらわれた由で、40 倍の威力はさすがです。コウノトリが無事自然の中で生きて仲間がたくさん増えるような環境になってほしいものだと思います。

15. 廃線跡に行く (ワイド)

増池 茂さん 7分20秒

かつて同じテーマで 4 対 3 の標準画面で撮影して作品として発表されていますが、今回はそのワイド版。福知山線生瀬から武田尾に至る JR 廃線跡を歩いて撮影されたもので、勝手知ったる道ということで要領よくまとめられています。インサートカットも効いていたと思います。あのトンネルのところで、「トンネルを抜けると〇〇だった」みたいなドラマが出来ないかな等と思ってみたりしました。

16. ぶらり中山道

森口吉正さん 9分10秒

関ヶ原町から宿場町柏原宿など昔の面影を残す宿場町をうまくまとめておられ、さすが森口さんだと感心しました。最後は醒ヶ井の名水でしめくくられるなど森口さんらしいところです。特に寝物語の里のところの県境の溝にまつわる話など人を惹きつけるお話でよかったと思います。名水シリーズに加え、中山道紀行もこれからシリーズとして楽しませて頂けるでしょうか。次も期待しております。

時間の都合で岡本さんの「紀州弁慶踊り」は来月まわしとなりました。来月ぜひ見させてください。

以上で上映を終え、喫茶組と居酒屋組とに別れて二次会へと席を移して楽しみました。